

グローバル教育センター オンライン海外インターンシップ 活動報告

佐藤史佳さん

異文化コミュニケーション学部
異文化コミュニケーション学科 3年
(参加当時2年)

佐藤さんは2年次であった2020年度にオンライン海外インターンシッププログラムに参加しました。業務の様子と学んだことをおうかがいしました。



写真右上が佐藤さん

派遣先：JR 東日本シンガポール事務所 (JAPAN RAIL CAFE)

派遣期間：2021年2月8日～3月19日

◇参加のきっかけについて教えてください。

コロナの影響で予定されていた長期留学が延期になったことがひとつの大きなきっかけです。留学延期により、留学やインターンを含め大学を卒業するまでに立てていた様々な計画が大幅に崩れましたが、制限されている今の時期を有効活用したいと考えました。本来であれば、実際に現地に行ってインターンシップを経験したいと考えていましたが、日本にいながら海外企業の業務を経験できることは絶好のチャンスであり、これは現在の状況下だからこそ実現可能であると考え参加を決めました。加えて、インターンシップを通して自分に何ができるのか、そして何を苦手としているのか、社会に出る前に明らかにしたいと考えたからです。様々な業務をこなしていく中で、自分という存在を客観視し、自分の弱いところを上手にプラスに変えつつ、得意分野を伸ばしていきたいと感じました。

◇派遣先企業について、また今回携わった業務について教えてください。

今回は主に、オンライン記事の作成と定期的に行われているオンラインイベントにゲストスピーカーとして出演するという2つの業務に携わりました。JR 東日本シンガポール様では、Japan Rail Times (JR Times nrailcafe.com.sg/web/article/prefecture) というオンライン記事を作成しています。ここでは、各ライターが日本の観光スポットやおすすめの場所や食べ物などのコンテンツを、シンガポールの方をはじめとした世界の多くの方々に発信しています。私は、実際に京都旅行で訪れた3つのキャラクターカフェに関する情報やおすすめのポイントを記事として執筆しました。



一方で、オンラインイベントは毎回スポットを当てる都道府県が変わるのですが、今回のテーマは徳島県でした。私自身は徳島県に訪れたことがなかったため特にリサーチに時間をかけました。そこで、インスタ映えの観点から徳島の春を満喫するとい

うことをプレゼンの軸にし、おしゃれでかわいらしいカフェ4店と春を感じられるスポット3つを紹介しました。業務を行う中で心掛けたことは、情報の受け手側が何を望んでいるのか意識するということです。

JR Times 執筆記事

<https://japanrailtimes.japanrailcafe.com.sg/web/article/community/kawaii-tasty-character-cafe-kyoto>

オンラインイベント URL :

https://www.facebook.com/JAPANRAILCAFE/videos/255678269487676/?_so_=_permalink&__rv_=_related_videos

◇印象に残っている仕事のエピソードを教えてください。

オンライン記事を執筆する際の、アイデア出しからテーマを決定していく段階が印象に残っています。記事を執筆するにあたり、あらかじめ自身で用意した3つのアイデアの中から現地スタッフとのやりとりを通して最終的に記事のテーマを決定していきます。その際に、情報の発信者が何を伝えたいかということよりも受け手側は何を望んでいるのかという受け手の視点に立って考えることの重要性に改めて気づかされたからです。実際、アイデア出しの段階において私は一つの記事の中であれもこれも発信しようと多くの情報を含めていました。しかし、多くの情報を提供するよりも内容の簡潔さ、そして一貫性を重視することで、結果的に情報の受け手側にストレートに伝わりやすく、わかりやすいということを学びました。もちろん、これは当たり前のことではありますが、今後ビジネスやその他のことを行っていく上でも意識していきたいポイントとなりました。

◇海外インターンシップを経験してみて、気づきや自身の成長・変化があれば教えてください

海外企業+オンライン環境下での気づきとして、自らアプローチをかけることがより一層重要になってくることが挙げられます。日本ではミーティング等の際に、沈黙や間などの非言語的要素を通して発話のターン交代や他の人が補足説明をすることが多いですが、この状況下ではそれが上手くいきませんでした。そこで、自分の発話が終わっても黙り込まず、他者に発言を求めたり自分が言った事柄に対するフィードバックをしてもらったりするなど、受け身の姿勢をやめて積極的に動くことを意識するようになりました。

一方で、多くの日本の企業のように一人ひとり決められたデスクが存在しないという点が個人的に大きな発見でした。インターン最終日にリモートで社内ツアーをして下さったのですが、個々のデスクが存在しないものの社員の方が快適に仕事をする事ができるワーキングスペースが充実していると感じました。加えて、会議室等の部屋もオープンで開放的であり、企業内で社員同士のコミュニケーションを大切にしているということが社内のつくりからもわかりました。

◇今後の目標を教えてください

今回のインターンシップを通して、ビジネスや経営、そして Lifestyle Business（生活サービス事業）というビジネス形態に対して新たに面白さを感じ、興味をもつようになりました。そこで、今後はそれらの分野に関する学びを授業等を通して深めていきたいと考えています。同時に、このインターンシップでの学びである他者の視点・目線に着目して物事を捉えること、そして自らアプローチをかけていくという点は今後共通して役に立つと考えます。今回の学びをここで完結せず、残りの大学生活や社会に出てからの活動に生かしていきたいです。

最後に、このコロナ禍という特殊な状況下においてもオンラインを通して海外企業と繋がり、実際に業務ができるということを自身で経験することができました。どのような状況に置かれても、置かれた環境の中できることを最大限やっていくという姿勢を忘れずに、今後も様々な事柄に挑戦していきたいと思えます。

以上